

(2) 風景特性基準

風景特性格色基準の考え方とイメージ

風景特性基準とは

Setagaya Color Guide

- ・風景づくり計画では、用途地域等に対応した「ゾーン別基準」のほか、配慮が求められる風景特性に隣接または近接する対象範囲で建設行為等を行う場合には、それぞれのゾーンに付加して適合を求める「風景特性基準」を定めています。

風景特性基準の考え方とイメージ

Setagaya Color Guide

- ・色彩については、風景の骨格となる要素などから、大きく3つの視点に基づいて風景特性基準を設定しています。

●望ましい色彩の方向性

●色彩基準の考え方

●適用対象



自然の彩りを活かす色彩

- ・豊かなみどりが中心となって、ゆとりや潤いを感じさせる風景をつくり出している場所に適用する基準です。
- ・地域の資産であるみどりが主体となるように、落ち着いた色使いを基本とし、無機質な印象を与えがちな無彩色を避けることや、バックヤードとなる設備機器類等を目立たなくすることなどを求めています。

まとまった緑

河川

緑道

農の風景



地域の歴史を紡ぐ色彩

- ・地域の歴史を伝える、文化財などの歴史的資産の周辺に適用する基準です。
- ・歴史的資産の存在感を高めるため、色彩や素材感を揃えたり、資産よりも穏やかな色使いを基本とし、対比的な印象の無彩色は避けます。バックヤードとなる設備機器類等を目立たなくすることなどを求めています。

歴史的資産



賑わいと風格をつくる色彩

- ・商業系などの建築物が立地する駅周辺や幹線道路沿道、世田谷線沿線に適用する基準です。
- ・駅前、沿道、沿線の連続する風景の中で、個々の建物の充実に加えて街並みの連続性や賑わいを創出する工夫を求めています。
- ・また、比較的規模の大きい建築物等が立地することから色彩を有効に活かした圧迫感の低減や、バックヤードの設備機器類等を目立たなくすることなどを求めています。

拠点

幹線道路沿道

世田谷線沿線



色彩を選ぶときのヒント

Setagaya Color Guide

- ・自然の彩りが映えるよう、自然の中で多く見られる暖色系の色相から選びます。葉の明度（3～6程度）になじむよう、明度は8.5未満に抑え、葉の彩度（6程度）より鮮やかな色彩や無彩色は避けます。

自然素材から考える

- ・自然の植物や樹木の色彩を元に、みどりと調和する素材（木材やレンガ等）や色彩を使用します。
- ・自然素材を思わせる色彩を継承することも考えられます。

自然木材を活用した店舗



みどりを引立てるレンガ



工作物は溶け込ませる

- ・視点場となる河川や緑道などから見えにくくなるよう、配置を工夫します。
- ・暖色系の低明度・低彩度色から選びます。

<参考>防護柵の景観配慮指定色（国土交通省）

例) 10YR2.0/1.0 10YR3.0/0.5

みどりに覆われたフェンス



目立たないように配慮した機器



街並みに連続性をつくる

- ・自然の色彩との連続性を図るため、無彩色の使用は避けます。
- ・隣り合う建築物や周囲のみどりになじむ色彩を使います。
- ・建築物の前を積極的に緑化し、周囲のみどりと一体となった風景をつくります。

穏やかな色彩の住宅が並ぶ川辺



一体感のある緑道と住宅のみどり



アクセントに自然素材を活かす

- ・建築物の一部でも工夫することで、自然の彩りが映える外観となります。
- ・プレーンな質感の素材と植物の間に木のルーバーを設けると自然な繋がりが生まれます。
- ・壁面上部の木材により、背後のみどりと連続性が生まれます。

異なる要素を緩やかに繋ぐ木材



みどりと連続性をつくる木材





色彩を選ぶときのヒント

Setagaya Color Guide

- ・歴史的資産が魅力的に見えるよう、資産に使用されている素材と調和する色彩を選びます。工作物を目立たなくする工夫や建築物の緑化によって、街並みに連続性を生み出します。

歴史的資産から考える

- ・瓦や漆喰など、歴史的資産に使用されている素材を積極的に継承します。
- ・できる限り本物にこだわり、模倣品の使用は避けます。
- ・歴史的資産に使用される素材と調和する素材や色彩を使用します。

長年親しまれている瓦（喜多見）



社寺の銅板屋根と木材（喜多見）



工作物は溶け込ませる

- ・建築物に付帯する設備機器類は、歴史的資産の視点場から見えにくくなるよう、配置を工夫します。木枠で囲うことなども考えられます。

＜参考＞防護柵の景観配慮指定色（国土交通省）

例) 10YR2.0/1.0 10YR3.0/0.5

社寺と調和した塀（大蔵）



木材によって隠した例（岐阜・高山）



街並みに連続性をつくる

- ・歴史的資産との色彩の連続性を図るため、無彩色の使用は避けます。
- ・隣り合う建築物や周囲の歴史的資産になじむ色彩を使います。
- ・建築物の前を積極的に緑化することで、周囲のみどりと一体となった風景をつくります。

屋根の意匠を工夫したバス停



地域で親しまれる瓦による庇



地域で継承される風景

- ・喜多見では、氷川神社や慶元寺等の社寺を農地やみどりが囲み、それぞれの素材や色彩が溶け合うことにより、風景に一体感が生まれています。
- ・異なる要素も、色彩や素材の工夫によって繋がりを持たせることができます。

みどりや歴史的資源が一体となった風景（喜多見）





色彩を選ぶときのヒント

Setagaya Color Guide

- ・視認性の高い場所では、色彩の使い方が建築物だけでなく地域全体の印象に大きく影響を与えます。賑わいの中で地域独自の秩序をつくるのが、地域の個性を伸ばすことにつながります。

圧迫感を抑える

- ・規模の大きい建築物の圧迫感を軽減するため、壁面を色彩によって分節化します。
- ・高い位置に高明度色を、低い位置に低明度色を使用する「高々低々の法則」を活用します。
- ・目につきやすい位置では質感の豊かな素材を使用します。

壁面の分節化



低層部に低明度色を使用した例



色彩で賑わいを演出する

- ・歩行者の視野角20°に納まる低い位置にアクセントを設けることで賑わいを創出します。
- ・テントや広告物に共通性をもたせるなどして、賑わいに連続性をもたせます。
- ・植物の彩りで潤いや季節の変化を表すことも効果的な演出です。

低層部のアクセント



バナー広告による連続性



他の商業地域の取り組み

- ・商業地域では、それぞれの街の個性を活かしたまちづくりが行われています。
- ・ある要素に共通性を持たせることで、賑わいの中にも地域としての統一感を演出しています。

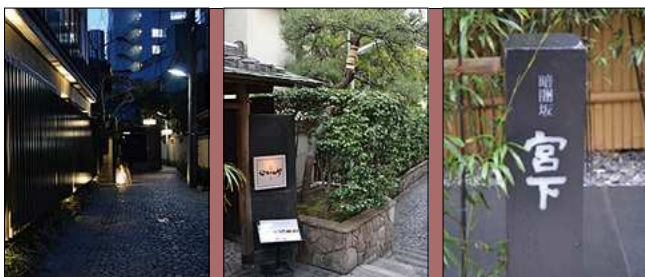
<自由が丘> 植物の彩り



<代官山> 色のコントラスト



<神楽坂> 石畳の灯り



<谷中・根津・千駄木> 素材のぬくもり



賑わいと風格をつくる色彩 | 拠点・幹線道路沿道・世田谷線沿線における色彩の考え方

風景づくりの手引き
- 色彩編 -

平成 28 年 4 月発行

発行 | 世田谷区都市整備政策部都市デザイン課

住所 | 158-0094 世田谷区玉川 1-20-1 (二子玉川分庁舎)

編集 | 株式会社カラープランニングセンター

電話 | 03 (6432) 7153

FAX | 03 (6432) 7996

広報印刷物登録番号 No. 1368